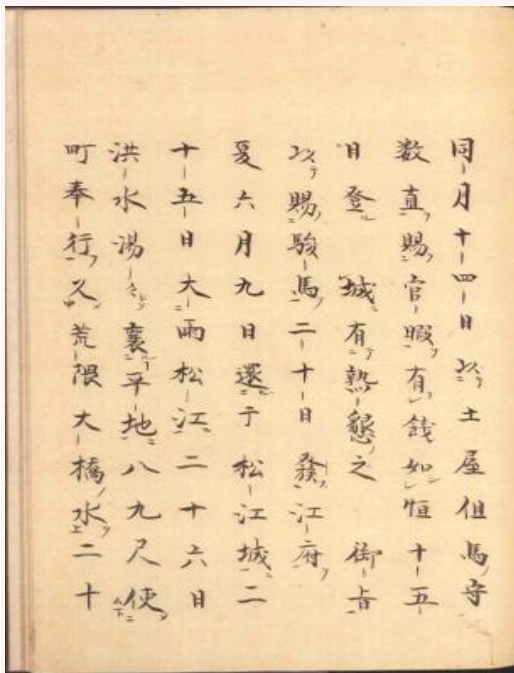


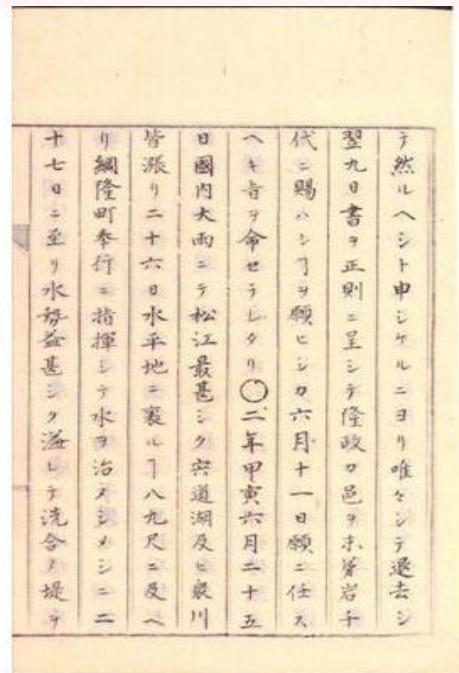
第30回 文献史料からみる『松江城・松江城下町』

松江市史料編纂室では、市史編纂のために「松江城」および「松江城下町」に関する文献史料の情報を収集しています。文献史料を調べていくと、様々な興味深い記述を見つけることが出来ます。今回はその中で、「松平家旧蔵家譜」の中の水害に関する記事を挙げてみましょう。

島根県立図書館所蔵「綱隆年譜 全」と「家譜上」(初代直政～五代宣維)の記事によると、延宝2年(1674)6月25日松江に大雨が降り、26日には水が八九尺(約2.4～2.7m)に襄(あ)がったという記述があります。28日には大橋が半落ちし、天神橋は全て流されたなど大変な被害があり、松江城三の丸玄関ノ三段目まで水が上がったと「家譜上」には書かれています。



「綱隆年譜 全」



「家譜 上」

(二点とも島根県立図書館所蔵)

この他に「綱近年譜」には、元禄2年(1689)10月21日に霖雨のために荒隈堤の水が溢れて松江城付近に水が流れたという記述や、元禄4年(1691)7月2日霖雨のために城の北廓の石壁が崩れて補繕をしたという記述があります。

編纂室ではこのような文献史料調査を進めていくために、「松江城の文献史料についての意見交換会」を行っています。第2回意見交換会では、和田嘉宥先生(松江市史専門委員)、西島太郎学芸員(松江歴史館)および編纂

室で、文献史料調査の進め方について話し合いました。そこで今後の調査は、古記録・新聞・埋蔵文化財報告書・刊本・絵図・写真・絵葉書など、様々な史料に広げて進めていくことになりました。

こうした文献史料情報の収集は、松江市史編纂のためだけでなく、この機会に松江城に関する史料の収集を進めていく事も目的としています。

(平成 26 年 1 月 22 日 松江市史料編纂室 石塚晶子)